大森六中だより

令和３年　　１０月号
大田区立大森第六中学校
統括校長　　菅野 哲郎
TEL　　3726－7155

United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

東北に学ぶ

10月13日から15日にかけて、3年生と宮城県、岩手県を周りました。この旅行の目的は、自然の豊かさや、文化そして、東日本大震災の被害の実態と復興への努力を体感し、「心感」（こころでかんじる：実行委員会が考えたスローガン）することでした。

始めに訪れた一関の厳美渓では、磐井川の浸食によって形成された甌穴など、神秘的な景観に心を奪われました。また最終日に訪れた気仙沼の岩井崎では、波の高い日だけに見ることのできる吹き潮や、よく晴れた日にしか見ることのできない金華山を見る事ができました。また、岩井崎には津波に負けずに残った松が龍の形に見える「龍の松」や郷土出身の横綱秀の山雷五郎の銅像があり、三陸復興国立公園に指定されています。

復興といえば、そのシンボルとして、陸前高田の「奇跡の一本松」があります。震災以前は、名勝高田松原と言われ、２kmの砂浜に約７万本の松が生い茂っていたなかで、正に奇跡のように残っていた松が、復興に向かう人々を勇気づけました。しかし、残念ながら塩害により根が腐ってしまったため、幹には鉄の心棒を通し、枝はプラスチックで複製されています。

10年前の被災の状況を今に残す旧宮城県気仙沼向洋高等学校の見学では、グループに分かれ語り部の方の説明を聞きながら津波の威力の凄まじさを直に目にしました。私が付いた班の語り部を務めた菊田さんは、ご自身の家が津波で流される様子をパネルで紹介されました。最後に震災時に菊田さんはどうされたのかを伺うと、仕事場にいて難を逃れたそうです。しかし、奥様とお嬢様と愛犬を亡くされたとお聞きして、胸に迫るものがありました。

見学の最後に、避難所となった気仙沼市立階上(はしがみ)中学校で、震災から10日後に行われた卒業式の映像を視聴しました。多くの避難者が見守る中で代表生徒の答辞は、多くの帰らぬ友を想う気持ちから途中涙声となりながらも、未来に向かって「運命に耐え，助け合って生きていくこと」を誓っていました。

この３日間をとおして、３年生は真摯に学び、悠久の平泉文化や春日流八幡鹿踊、そして自然の偉大さとともに、命の尊さと人々のたくましさを「心感」しました。

ユネスコスクール　10月号

持続可能な社会の担い手づくり

大田区立大森第六中学校　研修ユネスコ委員会

ゴーヤグリーンカーテン撤去・芝桜植苗

今年の夏は、日照時間が短かったため、ゴーヤ収穫は大豊作とはなりませんでしたが、カーテンの役目は一応終了したので、農援隊をはじめ全校の有志が集まり、グリーンカーテン撤去を行いました。有志が集まるとこれほどまでに効率よく動けるのかと、改めて感心します。作業開始から 30 分ほどで、作業終了しました。なお 1300 学級は、まだゴーヤが残っていることに加え、この夏かわいがった苗を撤去するのは忍びなく、後日撤去作業を行うことになりました。そこまで大切に思ってくれる気持ちが、とてもうれしいですね。

また、体育館の外側（洗足池図書館の通り）にある花壇に、芝桜の苗を 350 苗植えました。少しでも地域の人に楽しんでもらいたいと思い、今年度は校舎の外側に植えました。作業中通りがかりの地域の人に、「楽しみにしている」「春が楽しみ」と声をかけてもらい、同時に「ホタル放流式も参加しましたよ」とうれしい声も聞くことができました。次は何ができるか、行動できるか、楽しみです。

変容した修学旅行のかたち

今年度の修学旅行ほど、悩ましいものはありませんでした。実施も中止もすべて学校判断です。保護者の方々にご理解いただき、実施決定後も、不安はありました。9 月末で緊急事態宣言が解除され、日に日に新規感染者が減っていくものの、例年と大きく違うのは、農業体験を含む民泊を中止し、防災学習を中心としたものに変更しました。災害とどう立ち向かうかは、特に日本人は、常に考えておかなければならないことです。気仙沼東日本大震災伝承館は、向洋高校の校舎を襲った津波の被害をそのまま残し、後世に伝えることを目的としています。陸前高田市はかさ上げを行った土地を利用し、農場を作り、今後イベント会場を作ることで町おこしを考え、陸前高田伝承館も道の駅と隣接し、近代的な建物に作り替え、気仙沼市と対照的な印象を受けます。生徒は、この対照的な土地を見学し、命の大切さと、津波の恐ろしさを知り、災害が起きたときにどのように行動し、判断するかを、考えさせられたと思います。生徒は、中学校 3 年間で学習したことが、未来の日本や地球で起こりつつある、あるいは起こりうる課題に、立ち向かうための力や態度に育ってくれていると感じさせる修学旅行となりました。

気仙沼東日本大震災伝承館

校舎内に津波で流れてきた車

屋上からさらに上へ避難

陸前高田市復興祈念公園

奇跡的に残った陸前高田一本松

自転車に乗る責任について考えました

スケアード・ストレイト

一、安全な自転車の乗り方を覚える

一、交通事故再現などを通して日常的に危険を意識する姿勢を育む

を目的としたスケアードストレイトが、４年ぶりに行われました。田園調布警察の方々には、交通事故の半分が自転車に関わっているとのお話をいただき、本日の出前授業の意義を知りました。また「自転車安全利用５則」『①自転車は車道が原則、歩道は例外②車道では左側を通行③歩道は歩行者優先、歩道では車道寄りを徐行④安全ルール（飲酒運転・二人乗り・ヘッドホン着用・ながらスマホ・並進等の禁止、信号や標識を守る、薄暗くなったらライトをつけるなど）を守る⑤子供はヘルメット着用』など、事故に遭わない、事故を起こさないための交通安全に関するお話も伺い、自転車実技教室も実施されました。参加生徒、参加教員により、傘さし運転や二人乗り、ながらスマホがいかに危険であるか、「これくらいいいだろう」という甘さが事故につながることを学びました。

続いて、スーパードライバーズのスタントマンの方々により交通事故が再現されました。一時停止で止まらず車に衝突して跳ね飛ばされたり、並進やながらスマホで正面衝突したり、車道に近い所で信号待ちをしていたために後輪に巻き込まれたり・・・と実際の事故の再現は息をのむような迫真の演技で、恐ろしくて背筋が凍る思いがしました。「一人一人に与えられた命」を守る責任を改めて考えることができました。

田園調布警察の皆様、スーパードライバーズの皆様、ありがとうございました。

自転車安全利用５則のお話

ルール違反の自転車実技体験

迫真の事故再現

～笑顔あふれる学校に～

後期生徒総会

１０月８日の金曜日に、後期生徒総会が行われました。校長先生から「生徒総会はより良い未来社会を築くための試金石である」とのお話がありました。前期の活動報告、後期生徒会役員と専門委員長の任命式、後期役員会、委員会からの活動方針や計画が発表されました。活発に意見が出され、学校生活をよくするための貴重な時間となりました。このようにして〝自分達でよりよい未来を想像して、方向を決めて実行し、結果に責任を持つ〟という自治の精神が育まれていくのですね。

前期の活動報告

後期生徒会役員任命

後期の活動方針・計画発表

令和３年度　第３学年　修学旅行

10 月 13 日から 15 日までの 3 日間、3 年生の修学旅行が岩手県・宮城県で実施されました。歴史ある文化や被災地について実際に触れて学び、貴重な体験になったと思います。天候にも恵まれ、生徒たちは明るく楽しそうな笑顔であふれていました。

東京駅に集合、いよいよ出発！

盛岡へ向かいます

厳美渓を散策

中尊寺へ

頭が良くなりますように…

夕食で鹿踊観賞

陸前高田復興祈念公園

岩井崎を散策

気仙沼の震災遺構

手作り村

チャグチャグ馬コ完成！

最後はお蕎麦を食べました